

平成17年9月29日・30日
東京「アルカディア市ヶ谷（私学会館）」

平成17年度

私立短期大学図書館情報担当者研修会報告書

主催 財団法人私学研修福祉会
協力 日本私立短期大学協会

目 次

研修会の主題・目的・目次

研修会の主題・目的 1

運営委員（指導員） 2

日程 3

基調講演 5

「短期大学の現況と今後の課題」

日本私立短期大学協会常任理事・事務局長 佐藤 存 氏

委員会報告 12

「図書館情報研究委員会 # P の開設と運用」

嘉悦大学短期大学部教授 宮本 勉 氏

特別講演 24

「インターネットと図書館」

実践女子大学図書館司書 伊藤 民雄 氏

分科会報告について

第1分科会 短期大学図書館の自己点検・評価について 26

第2分科会 図書館の専門性からみたアウトソーシング問題と
利用者サービスの向上について 37

第3分科会 インターネットを利用した図書館情報の提供について 38

アンケートの集計結果について（項目別事前アンケート） 39

研修会参加者アンケートの集計結果についてのまとめ 56

参加者名簿 64

過去の研修会（平成3年度～平成15年度） 73

研修会の主題

短期大学図書館の理念とビジョンの構築 一点検評価・アウトソーシング・情報発信

目 的

近年における私学の高等教育は、少子化が進む中であって、急激な改革が進められ、生き残りをかけている。特に短期大学は四年制志向が強まる中であって、短期大学としての特徴的な教育理念を実践することによって、その存在価値を積極的に強調しなければならない時に立ち至っている。

短期大学が展開する教育研究の一翼をにない最新の学術情報を学生や教職員に提供し、知の殿堂としての位置を占める短大図書館は、時代を先取りして情報の提供にあたり教育の進展に寄与しなければならない。しかし、短大図書館は近年における機械化による事務処理の効率化が進む中であって、図書館専門職としての司書の意識改革や業務の見直しなど多くの問題をかかえており、次代の要請に応えることが急務となっている。

本図書館情報研究委員会としては、その一環として、本年度は次の4課題について研究を進めている。

第1課題 短期大学図書館の自己点検・評価に関する研究

第2課題 図書館の専門性から見たアウトソーシング問題と利用者サービスの向上に関する研究

第3課題 インターネットを利用した図書館情報の発信に関する研究

第4課題 ネットワーク時代の資料組織化の研究

この、4課題の研究課題の中から、本年度の研修会では3つの課題を研修する。これらの問題点を参加者全員で討議・研究することにより、今後の短大図書館のあり方を摸索し、理想とする短大図書館のビジョンを構築する一助としたい。同時に当面する短大図書館の情報提供、交換の場としての研修会になることを期待し、図書館職員の資質の向上を図りたい。



運営委員（指導員）

運営委員（指導員）

	氏名	短大名	学内職名
委員長	塩川利員	大阪青山短期大学	理事長・学長
副委員長	小野一成	戸板女子短期大学	名誉教授
"	椎名仙卓	聖徳大学短期大学部	図書館副館長
委員	二宮嘉須彦	郡山女子大学短期大学部	図書館副館長・教授
"	磯野嘉子	千葉経済大学短期大学部	助教授
"	渡部満彦	大妻女子大学短期大学部	図書館長・教授
"	宮本勉	嘉悦大学短期大学部	教授
"	足立行子	東京富士大学短期大学部	図書館長・教授
"	井上節子	文化女子大学短期大学部	図書館司書長
"	篠原智子	立教女学院短期大学	図書館主任
"	杉江晶子	名古屋文理大学短期大学部	図書情報センター課長代理・助教授
"	井漂房男	大阪青山短期大学	図書館主任司書
"	坂本恭子	大阪女学院短期大学	図書館長

” 河 崎 雅 人 岡山短期大学 情報処理教育センター長・教授

< 短期大学一覧順 >

日 程

	第1日 9月29日(木)	担 当 委 員	会 場
9:30	受 付	事務局	3階 ロビー
10:00	オリエンテーション 椎名副委員長	総合司会 小野副委員長	3階 富士東
10:20	開会挨拶 塩川委員長		
10:30	全体会 基調講演 日本私立短期大学協会常任理事・事務局長 佐藤 存氏	司 会	"
11:00	委員会報告 「図書館情報委員会HPの開設と運用」 嘉悦大学短期大学部 教授 宮本 勉氏	"	"
12:00	昼 食		
13:00	分科会 第1分科会 短期大学図書館の自己点検・評価について 1. 基礎となる第1発表 テーマ 短期大学の自己点検・評価報告書における 図書館の現況 青葉学園短期大学 図書館長・一般教養主任・教授 宮 内 美智子 氏 2. 基礎となる第2発表 テーマ ISO認証取得への図書館としての取り 組みについて - 聖徳大学短期大学部の場合 - 聖徳大学川並記念図書館 司書 古 澤 義 弘 氏 第2分科会 図書館の専門性から見たアウトソーシング問 題と利用者サービスの向上について 1. 基調講演 「図書館の管理代行、業務の委託」 - 公立図書館の事例から検討の視点を考える - 社団法人日本図書館協会 常務理事・事務局長 松 岡 要 氏 2. 講 演 「アウトソーシング対象業務と運営方法の 現況」 丸善株式会社学術情報ナビゲーション業務部 図書館サービスセンター長 石 井 文 雄 氏 3. 併設館からの事例発表 文化女子大学図書館司書 小 沢 万 紀 氏 第3分科会 インターネットを利用した図書館情報の提 供について	椎名副委員長・篠原・ 坂本各委員 小野副委員長・二宮・ 磯野・井上・足立各委員 宮本・渡部・杉江・井澤・ 河崎各委員	5階 穂高東 5階 穂高西 5階 大雪 東西
17:30	休 憩		
18:00~	情報交換懇談会		3階 富士東

	第2日 9月20日(金)	担当委員	会場
9:00	全体会 特別講演 「インターネットと図書館」 実践女子大学図書館 司書 伊藤民雄氏	総合司会 小野副委員長	3階 富士東
10:00	分科会 第1分科会 短期大学図書館の自己点検・評価について 講演 短期大学図書館と個人情報保護法について 文教大学越谷図書館 司書 藤倉恵一氏 第2分科会 図書館の専門性から見たアウトソーシング問題と利用者サービスの向上について 単独館からの事例発表 ・実践女子短期大学 図書館課長補佐 大井三代子氏 ・戸板女子短期大学図書館 司書 相馬香氏 第3分科会 インターネットを利用した図書館情報の提供について	前日と同じ	5階 穂高東 5階 穂高西 5階 大雪 東西
12:30	(分科会ごとに解散)		
14:00	希望者のみ近郊の大学図書館見学 (現地集合・解散) 1 明治大学図書館・博物館 2 戸板女子短期大学図書館 3 聖徳大学短期大学部図書館・博物館	渡部・井上・杉江・井澤・ 坂本委員 小野副委員長・井上(事務局) 椎名副委員長・篠原委員	

分科会報告

第1分科会 短期大学図書館の自己点検・評価について

運営委員 椎名仙卓
篠原智子
坂本恭子

近年、我が国では高等教育の中で四大志向が強まり、短期大学は少子化が進むにつれて各種の見直しに迫られている。そのためには、自己点検・評価によって改革を進めなければならない。本年4月からは「個人情報保護法」が施行され、短期大学では第三者評価がスタートした。第1分科会では、こうした現状をふまえて、短期大学図書館が大いに関心のあるこれらの話題に関して対処した。

第1日目(13:00~17:30)は椎名委員の司会で進行し、二つの基礎となる発表と、参加者の自己紹介により、実態の把握を行った。

第1発表は、青葉学園短期大学図書館長・教授の宮内美智子氏による「短期大学の自己点検・評価報告書における図書館(単独館)の現況」であり、短期大学単独館に焦点をあて、人文・社会系の短期大学(34校)と看護系の短期大学(18校)に分けて、過去の「自己点検・評価報告書」(私立短期大学基準協会に保管されていたもの等)を分析した結果を発表された。記載項目についての調査では、記載のあった項目として多かったのは、図書館資料の収集・構成、施設・設備、利用状況、図書館の課題だった。また、今後の短期大学図書館運営の課題として、資料収納スペース問題(除籍・廃棄を含む)、利用者教育の充実(資料活用のために)、検索システムの拡充、図書館の機械化対策、そしてアウトソーシング対策などがあげられた。これらの課題は、本分科会の事前アンケート集計結果にも同じようなことがあらわれている。講演後の質問は第三者評価に集中した。宮内氏からは、図書館が現状をどのように認識しているか、そして今後の展望についても記述しておくべきであるという大変適切なアドバイスがあった。

第2発表は、聖徳大学川並記念図書館・司書の古津義弘氏による「ISO認証取得への図書館としての取り組みについて 聖徳大学短期大学部の場合」であった。教育界にはまだ普及していないISO9001(品質[教育の質]マネジメントシステム)とISO14001(環境マネジメントシステム)を同時取得した聖徳大学短期大学部の事例発表であった。ISO9001は継続的に業務を改善して顧客満足の向上を目指す世界共通の規格であり、一定の方式に基づいて仕事のやり方を文書化し、そのとおり実行し、結果を記録していく。すべての業務のステップは文書化され、それが改訂されれば即文書化するので、業務が改善されても、マニュアルが古いままというようなありがちなことが改善される。書類作成、管理作業が増えるが、常に変化する業務が文書でとらえられているということは、図書館の自己点検・評価が常におこなわれていることにもなる。また、内部監査を実施することにより他部署の業務が判明することもメリットの一つのことで、あった。新しい点検・評価の一面が提示された。

第2日目(10:00~12:30)は、坂本委員の司会で進行し、講演のあと、事前アンケートの結果を篠原委員が報告した。

講演は、文教大学越谷図書館司書・藤倉恵一氏による「短期大学図書館の現場と個人情報保護法について」であり、私立短期大学図書館は「個人情報保護法」が適応されるが、それよりも図書館は「図書館の自由に関する宣言」中にある「利用者の秘密を守る」を遵守して運営しなければならないので、「個人情報保護法」に振り回されることはないとのことであった。また、図書館現場で日常起きるさまざまな個人情報に関わる問題をとりあげ、具体的な解決策や方針を話された。利用者対応では、貸出記録、レファレンス、相互協力、利用者への連絡、複写記録、利用者登録など、また、管理部門では、入退館の記録や防犯カメラの記録、コンピュータのログなどがあるが、不要であれば破棄したり個人情報を集計用データに置換したりするなど、不要なデータは所持しないことが肝要であると強調された。図書館の対策としては、日常の業務以外に、広報や掲示などで「図書館の自由に関する宣言」や図書館独自の

個人情報保護方針を明示して、利用者を安心させることが何よりも必要であるということが述べられた。

参加者からは、館内にいる利用者呼び出す時の対応などについての質問があった。個々の図書館で、個人情報やプライバシーを「なぜ守るのか」ということについて再確認し、冷静に対応することが必要となる。



第2分科会 図書館の専門性から見たアウトソーシング 問題と利用者サービスの向上について

運営委員 小野一成・二宮嘉須彦
磯野嘉子・井上節子
足立行子

当分科会は、2003年（京都大会）と2005年（東京大会）の2度、アウトソーシングをテーマとしてとりあげた。分科会は2期にわたり2短期大学図書館におけるアウトソーシング問題について、問題の整理と実態の把握をおこなったことになる。

テーマを継続した理由は、アウトソーシング是非論をじっくり詰めていられる悠長な段階ではないという京都大会での認識からである。予想を上回る数の短期大学図書館で、アウトソーシングが浸透している。それが、図書館の「利用」にどう問題を投げかけているのか。図書館員側からとらえたアウトソーシングに関わる問題を整理討議し、現状の認識を得ながら参加者とともに考えるのが今回の目的であった。

今回の研修会では、各館の事例発表を核にそこから議論を展開した。まず基本的な確認のために基調となる講演をおこなった。講演者は松岡要氏（日本図書館協会）で、「図書館の管理代行、業務の委託 - 公立図書館の事例から検討の視点を考える」と題して、アウトソーシング（業務の委託）と管理代行の違いを中心に整理された。この講演によって分科会参加者の共通認識がなされた。そのため、発表された各大学の事例発表も、参加者にとって現状の把握のみならず、問題の核が定まったといえる。

アウトソーシングを是非論でなく、図書館が担う利用者サービスの向上という、役わりの視点からとらえた今回の分科会での議論は、26大学28名の参加を得て明解で活発に進んだ。



第3分科会 インターネットを利用した図書館情報の提供について

運営委員 宮本 勉・渡部 満彦

杉江 晶子・井澤 房男

河崎 雅人

第3分科会では、26名の参加者がおり、この研修会に参加するのは初めての方がほとんどであった。この分科会では、2名に1台のノートパソコンを準備し、インターネットに接続をして実践を踏まえた研修会を行った。13台のノートパソコンの調達と会場でのインターネットへの接続準備は運営委員5名で行い少々大変であったが、参加者には好評であった。以下、第1日目、第2日目の内容をまとめる。

第1日目（9月29日 13:00～17:30）

1. 自己紹介

図書館HPは開設しているが、作成・更新を他に依存しているケースが多く、図書館員でHP作成技術を身に付けたいと思い、この分科会に参加した方が多かった。

2. 図書館情報委員会のホームページについて（宮本委員）

今年度運用を開始した日短協・図書館情報研究委員会のホームページの利活用として、主に「交流コーナー(掲示板)」の紹介と実習を行った。

<http://www.tandai.or.jp/kyokai/toshokan/html/top.htm>

3. 「第3分科会」アンケート結果について（宮本・杉江委員）

前項HP「小委員会・機械化」の「第3分科会アンケート結果」にアクセスし、短大図書館のIT化の状況や問題点、運営上の悩み等を確認した。

4. 「よいホームページを作るには」実習（河崎委員）

- | | |
|-------------------|-----------------------|
| ・ ホームページを作る準備 | ・ ページデザインの5つの法則 |
| ・ デザインテクニック(HTML) | ・ ホームページの評価の観点 |
| ・ スタイルシート(CSS) | ・ 大学図書館のトップページのガイドライン |



第2日目（9月30日 10:00～12:30）

1. 「大阪青山歴史文学博物館」ホームページ紹介（井澤委員）

<http://www1.osaka-aoyama.ac.jp/oa/museum/index.html>

・ 本学は開学以来一貫して古典籍・古文書・絵画・工芸品等貴重資料の蒐集に努めてきた。

現在、国宝 土左日記をはじめ重要文化財 13点、重要美術品 42点を含む約 5,000点を所蔵している。歴史の所産でもあるこれらの文化財は、大学教育に活用するとどまらず広く地域住民に公開している。

2. 「インターネット時代におけるOPAC検索」実習（渡部委員）

・ 「川端康成が亡くなった何年か後に、ウスイという評論家が川端の自殺をテーマにした小説を発表した。書名と著者を検索」

・ 「寺田寅彦は吉村冬彦で随筆を書いている。両者の随筆をもれなく検索」

3. 研修会参加アンケート

満足度や要望等の結果については、日短協・図書館情報研究委員会HPに掲載予定である。

アンケート集計結果

- ・短期大学図書館の自己点検・評価について
- ・図書館の専門性から見たアウトソーシング課題と利用者サービスの向上について
- ・インターネットを利用した図書館の情報提供について

第一分科会アンケート結果

平成 17 年度「私立短期大学図書館情報担当者研修会」(9 月 29 日～30 日)の参考資料とさせていただくために行なった事前アンケートの結果です。私立短期大学協会加盟校 397 校にアンケートを送付して、256 校からご回答いただきました。ご協力下さった方々に感謝申し上げます。アンケートの質問は、大きく四つに分けられ、第一は、図書館について(設置形態、職員、奉仕対象数など)、第二は、自己点検・評価、第三者評価の実施の有無、予定について、第三は、図書館資料の選書・廃棄について、第四は、第三者評価を受けるに当たりの図書館の課題についてとなっています。

アンケートⅠ「短期大学図書館の自己点検・評価についてのアンケート」集計

回答数 : 256(加入校 : 397) 回収率 : 64.5%

A. 図書館について

1. 設置形態

	回答館数	割合
a. 単独館	129	50%
b. 大学・大学院共用館	115	45%
c. その他(両校・専門学校との共用館など)	12	5%
合計	256	100%

2. 奉仕対象学生

(回答館平均値)	短大生	その他	合計
a. 単独館	550	149	699
b. 大学・大学院共用館	496	1,738	2,234
c. その他(両校・専門学校との共用館など)	484	1,066	1,550
回答館全体平均値	523	906	1,428

3. 図書館職員

ア. 図書館職員と専任職員

(回答館平均値)	図書館職員数			合計
	a. 専任	b. 非専任	c. 派遣職員等	
a. 単独館	1.66	0.74	0.26	2.66
b. 大学・大学院共用館	4.67	1.69	1.52	7.88
c. その他(両校・専門学校との共用館など)	3.08	1.42	0.17	4.67
回答館全体平均値	3.08	1.20	0.82	5.10

イ. 司書・司書補資格保持者

	司書・司書補資格保持者数			司書・司書補資格保持者の割合	
	a. 専任	b. その他	合計	a. 専任	合計
a. 単独館	1.29	0.55	1.84	78%	69%
b. 大学・大学院共用館	3.19	2.01	5.20	68%	66%
c. その他(高校・専門学校との共用館など)	2.58	0.58	3.16	84%	68%
回答館全体平均値	2.20	1.21	3.41	71%	67%

ウ. 職員配置状況

回答館数	専任職員配置		司書配置	
	館数	割合	館数	割合
a. 単独館	129	116 89.9%	124	96.1%
b. 大学・大学院共用館	115	113 98.3%	113	98.3%
c. その他(高校・専門学校との共用館など)	12	11 91.7%	11	91.7%
合計	256	240 93.8%	248	96.9%

エ . 職員一人当たりの学生数

(回答館合計)	職員数	学生数	職員一人当たりの学生数
a . 単独館	342 . 2	90,138	263 . 4
b . 大学・大学院共用館	907 . 4	256,939	283 . 2
c . その他(両校・専門学校との共用館など)	56	18,596	332 . 1
回答館全体合計	1305 . 6	365,673	280 . 1

B . 自己点検・評価、第三者評価の実施について

1 . 自己点検・評価報告書を発行していますか?

1) 図書館単独で

a . 発行している	8	3%
b . 発行していない	206	80%
無回答	42	16%
	256	100%

2) 大学として図書館を含めて

a . 発行している	201	79%
b . 発行していない	48	19%
無回答	7	3%
	256	100%

2 . 認証評価機関(大学基準協会・短期大学基準協会等)による第三者評価を実施しましたか?

a . 実施

H10 年度実施	4
H13 年度実施	1
H14 年度実施	2
H15 年度実施	2
H16 年度実施	7
H17 年度実施	26
小計	42

b . 実施予定

H17 年度以降実施予定	2
H18 年度以降実施予定	35
H19 年度以降実施予定	38
H20 年度以降実施予定	29
H21 年度以降実施予定	29
H22 年度以降実施予定	13
小計	146

c . 未定

無回答	7
-----	---

合計	256	(複数回答あり)
----	-----	----------

3. 他大学との相互評価を実施しましたか?

a. 実施

H7 年度実施	1
H10 年度実施	1
H11 年度実施	3
H12 年度実施	12
H13 年度実施	11
H14 年度実施	20
H15 年度実施	14
H16 年度実施	9
H17 年度実施	2
小計	73

b. 実施予定

H17 年度以降実施予定	5
H18 年度以降実施予定	5
H19 年度以降実施予定	3
H20 年度以降実施予定	2
H21 年度以降実施予定	1
小計	16

c. 未定

無回答	161
-----	-----

無回答	15
-----	----

合計 265 (複数回答あり)

C. 図書館資料の選書・廃棄について

1. 選書委員会はありますか?

a. ある	143	56%
b. ない	83	32%
c. その他	30	12%
無回答	0	0%
	256	100%

2. 収集規程(覚書を含む)はありますか?

a. ある	121	47%
b. ない	121	47%
c. その他	14	5%
無回答	0	0%
	256	100%

3. 除籍規程(覚書を含む)はありますか?

a. ある	162	63%
b. ない	78	30%
c. その他	14	5%
無回答	2	1%
	256	100%

D. 図書館の課題

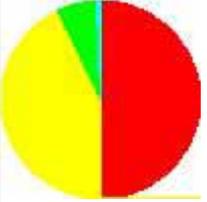
多かった課題の上位は、やはり、図書館をなりたたせている資料・人・施設に関する課題で、スペースの不足、所蔵資料の充実、新しい機器に対応する施設・設備、職員の増員、コンピュータ化などの図書館システムについてで、あった。短期大学の図書館の充実がのぞまれる。続いて、サービスの改善、開館時間の延長、利用教育、学生の利用状況、図書館の開放などが多くあげられた。これら課題は、今後、研修会のテーマを選ぶ際の参考にもなる。

第二分科会アンケート結果

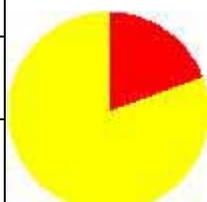
研修会実施要項送付時にお願ひしましたアンケートの結果です。％はそれぞれの質問に対する回答数の合計を基にしています。従いまして、回答数が同じであっても割合が同じとは限りません。アンケートに回答をよせて下さった方々に感謝申し上げます。なお、本アンケートは日本私立短期大学協会に加盟する397校を対象に実施し、256校(回答率64.5%)から回答をいただきました

アンケート 「専門性から見たアウトソーシング問題と利用者サービスの向上について」のアンケート集計

(1) 図書館の設置形態

選択肢	回答数	割合(%)	凡例	
単独館	128	50	■	
大学・大学院共用館	110	42.97	■	
その他	16	6.25	■	
未記入	2	0.78	■	

(2) 貴図書館では利用者サービスの向上を目的としたアウトソーシングを実施していますか。

選択肢	回答数	割合(%)	凡例	
実施している	50	19.53	■	
実施していない	206	80.47	■	

(3) 実施していると回答された図書館は、実施している業務の種類をお書きください。

目録業務、閲覧業務
装備不NC登録
図書館システムのサポート
製本業務、清掃業務
清掃、製本、試験機の館内パトロール
受入・整理・装備・閲覧業務の一部
目録作成業務のうち遡及入力業務
図書館業務全般(管理業務は除く)
収蔵図書等の管理、貸出し及び館内閲覧に関わる業務。利用者に対するその他のサービス。
カウンター業務(貸出・閲覧) 図書・AV資料の発注・整理(書誌データの入力・装備)
目録入力
カウンター業務、図書目録処理
入館受付、メインカウンター業務、和書整理、雑誌整理。
図書受入及び装備
閲覧業務、収書(発注・受入・整理)業務
図書のデータ入力
図書整理、製本
カウンター閲覧業務、受入整理業務、夜間・土曜日開館業務
業務委託(1~7) 1. 製本:雑誌合本・図書修理 2. ブッカー装備 3. データ入力:個人文庫、新規受入和書の一部 4. 資料保管(書庫) 5. コンピュータのメンテナンス(ソフト・ハード) 6. 紀要の発送 7. ホームページの作成・更新
目録の作成、資料装備

寄贈図書整理業務（コレクションとしてまとめて寄贈された資料） 閲覧・整理業務ほか（専任職員異動に伴う代替要員）
閲覧業務（人材派遣）
夜間カウンター業務
県内の各大学と公共図書館との情報交流。
マークの取り入れ
雑誌アクセスの導入、製本、清掃、警備
閲覧業務（夜間・日曜日） 受入・整理業務。
図書の発注業務、書誌データの入力業務、閲覧業務、書架整理、レファレンス業務。
製本、清掃、警備
システム（メンテナンス）[システム導入]平成9年度/図書発注システム。平成10年度/館内システム 整理、サービス（閲覧）平成12年度/館内システム 図書・雑誌
人材派遣
カウンター
閲覧カウンター業務1名、整理業務2名。
カウンター業務（主に貸出・返却） データ入力業務
図書館運営業務全般
開講期間中月曜日～金曜日まで18:00～21:00開館 カウンター業務を派遣職員に委託
レファレンスを除く閲覧業務と書庫管理
図書館運営業務全般
夜間閲覧
1. 目録・装備業務 2. 閲覧業務
電算機の運用、製本、清掃、警備業務
業務全般
機器管理、蔵書検索
「業務委託」として正職員異動に合わせて配置されている
図書等の装備作業全般
平日開館時間の延長（17:00～20:00） 土曜日開館（9:00～1500）
司書業務と夜間窓口業務
図書受入業務、貸出返却カウンター業務、時間外夜間開館業務
資料装備の一部を書店へ

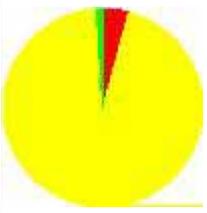
（４）利用者サービスの向上という観点から、アウトソーシングを実施（導入）によるメリットとデメリットについて、お考えをご記入下さい。

目録業務についてはスタッフがより専門性を高め、資料の整理が早くなった。閲覧業務では非選任職員の業務範囲を決めているので、利用者から見ると同じ職員で、対応が違うように感じるかもしれない。
小規模の短大としては、図書館業務を通して学生の人間教育も行っているのが実態であり、アウトソーシングの導入はなじまないと思う。
レファレンス、図書館利用教育、サインなど、いろいろな利用者サービスを見直し評価することができている。そういうことを考えればデメリットはない。
メリット/図書館サービスのノウハウが具体的に把握できる。 デメリット/コストがかかる。
メリット：人手不足の解消 デメリット：図書館の独自性の希薄化。図書館蔵書構成及び利用者ニーズの把握が困難
スキルに習熟した人員によるサービスが期待できるが、職員の業務に対する意欲の向上につながるよう留意する必要がある。
日常業務において、もはや不可欠となったコンピュータシステムに関して、専門業者の存在は大きな安心感となります。
図書館の運用面、対外的な部分に正規職員をまわせるという利点がある。デメリットは司書職としての専門性、スキルの低下をまねく懸念。

メリット：一般的に多数の図書館でアウトソーシングしている業務であり、業務の効率化が計られている
利用者サービス（閲覧担当職員）要員を増員できた。
メリットは図書館政策や業務分析、業務改革などに力をそそぐことができた点。 デメリットは経費がかかり、負担増になった点。
メリット：経費節減効果が大きい。 デメリット：特になし。
開館時間の延長に伴う利用者サービスの充実。 デメリットは現在のところ特になし。
メリット：開館時間の延長。職員のカウンター業務の軽減。その分を「参考質問の対応などサービスに当てることができる。 遡及入力を依頼し、利用者への情報提供が早くなった。
メリット：専門性の高い人材の導入により幅広いサービスの展開が期待できる。 デメリット：経費負担が大きい。
利用者サービスの向上という観点からの導入ではありません。理由は専任としては職員を確保できないためです。
職員が定型、均質な業務外に集中できる。場合によってはノウハウが蓄積されなくなる。
図書館職員が少ないため、アウトソーシングを導入すれば、より利用者に対し時間的にも物理的にもサービスは向上することがメリット。デメリットはタイムラグや直接的に関わらないことにより、現状の把握がしにくくなる。
図書装備を外注したことにより、カウンター業務やガイダンスなど利用者サービスに力を入れることができる。
開館時間の延長等、利用者サービスの向上、拡大というメリットと同時に、スタッフの専門性低下等のデメリットも起こり得る為、図書館、専門スタッフの管理によるバランスの保持や、アウトソーシングに対する定期的な評価、見直しが不可欠であると考えます。
判断業務に集中できた。
農業関係の専門的レファレンスの必要性から利用者サービスに問題がある可能性がある。
業務を部分的に委託で進めているが、成果はあがっており評価できる。しかし、図書館に求められる新たな課題は多く、アウトソーシングの活用は、より必要性を増すと考えられる。館員のマネージメント能力を磨かないと利用者サービスへのデメリットが派生しかねない。
メリット：司書がレファレンス等の専門的な仕事に従事できる。 デメリット：職員との意思疎通が充分にとれないこともある。責任の問題。
大量の寄贈図書整理業務については、日常業務へのしわ寄せが軽減されるメリットがある。
開館時間を延長できたこと。その時間帯の利用があること。レファレンス等、利用者からは図書館員であるのに、差が生じること。
職員の負担にならない形で開館時間延長できた。
他館の蔵書状況が把握できる。
メリット：その分レファレンス等の時間にあてられる。 デメリット：本を手にとることのでられる情報がレファレンスに役立つが、その機会が減少する。
資料の整理・管理について統一性が得られ検索・配架にはメリット
専任の職員を雇用しなくても良い。図書館に職員が常駐できる。
メリット 閲覧：夜・日曜開館等開館日数の増加が図れた。 整理：レファレンス、収書のコアな業務に人手が回せた。 デメリット：長期的にみて、人員削減により人材育成が難しくなった。
専門的知識をもって対応しており、デメリットは特になし。
メリット：蔵書検索が簡単になった。 デメリット：機会のトラブル発生時に利用不可になる。
*メリットとして 1. 業務の質の維持と向上につながった。 2. 利用サービスを拡大できた（例：開館時間の延長）ことがあげられる。 *課題として後継が育つだけのバランスがあるかどうかにかんして配慮する必要がある。
人件費削減。利用者動向・要求が把握できない。
業務に専念してもらえる。予算枠での業務になるので残業がしてもらえない。
メリット：職員の人事異動がなくなり、図書館サービスの質の低下が防げた。デメリット：就労人数が委託前より少なくなったため、館内見回りの回数減少等の防犯・警備上の問題が出てきた。
メリット：開館時間を延長する事が出来た。 デメリット：サービス内容に制限が生じる。
開館日数・時間の増加。 デメリット：サービスの質の低下。

メリット：図書館業務に専念できること。デメリット：学園全体の状況、情報が伝わりにくい傾向があること。
内部業務が簡素化されるが反面コストがかかる。
小規模図書館において、人が変わることは、大きなデメリットと考える。
メリット：開館時間の延長ができる。デメリット：セキュリティの問題。
メリット：学習環境の改善になった。デメリット：業務を限定すること。利用者とのトラブル対応、危機管理について不安がある。
メリット：新入生オリエンテーションの実施回数が増加した。デメリット：委託スタッフのスキル不足。
経費の抑制の意味から利用者と直接対面しない業務への導入
積極的な取り組みにより利用者サービスが向上している。
メリット：カウンター業務の迅速化、正確化。デメリット：特になし
司書資格は持っているが図書館勤務経験はなく、一般のアルバイトと同じレベルの人が配置されてくるのでよくない。
メリット：司書の専門性が発揮できる（仕事量が軽減されるため）デメリット：経費がかかる。
メリット：夜間開館、時間延長開館、土・日曜日開館の実施が可能。デメリット：個人情報取扱い管理の不備、危機管理体制の不備
メリット：判断業務と処理業務が明確になった。デメリット：現在のところなし。
メリット：人件費がおさえられる。デメリット：サービスの低下が懸念される。
利用者の増加と事前学習時間の確保。
視点の変化。
人件費の抑制。業務引継等のトラブル。
専任職員によるオリエンテーションを含む利用者教育及び利用指導の充実を図る。委託スタッフの知識・技術レベルに差があり業務への影響がある。
メリット：受入から配架までの時間が短縮できた。短縮した時間を他の業務にかかることができた。デメリット：装備の出来にむらがあり、ミスや抜けがある。

(5) 実施していないと回答された図書館で将来アウトソーシングを実施する予定はありますか。

選択肢	回答数	割合 (%)	凡例	
ある	9	4.66	■	
ない	182	94.3	■	
未定	2	1.04	■	

(6) あると回答された図書館は、導入予定時期・業務の種類などについて具体的にご記入下さい。

検討中 導入予定時期：平成 18 年度より 業務の種類：装備。土曜・日曜等の会館に伴う業務一般
導入時期は未定。業務：開館延長におけるカウンター業務を検討。
各業務について導入メリットを勘案のうえ、当館において導入可能かも含め検討を開始している段階です。
閲覧業務、時期などについては未定。
平成 17 年 10 月 1 日から閲覧業務等で導入予定。
*人件費圧縮のためのアウトソーシングは既に実施済。
サービスカウンター業務
平成 18 年度設置予定学科図書を受入、整理、資料装備など。目録のアウトソーシングを行う予定。

(7) その他

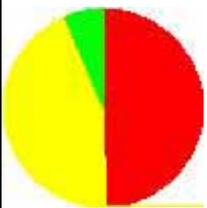
未定
人的削減の政策に対応するためにアウトソーシングを増やしてきているが、予算（図書館）自体が全体的に増えていないので業務量の軽減がなかなか進まない。
時期は未定であるが高度なサービス要求に対しては、カウンター要員、電子化による知的スキルの高い人、管理者業務。
現在、図書のデータ入力についてはアウトソーシングを行っているが、将来的にはサービス部門も行わざるを得ないと考えている。
利用者サービスに必要な、受入・整理業務は NII システムの導入で、外注化が可能となり、閲覧業務のカウンターも自動貸出返却システムで機械化も可能となった。その他、利用者サービスには色々あるが、専門性が必要な利用者サービスの向上のポイントは、レファレンスサービスの優劣がポイントとなるように思う。 本学の場合、職員人事は、法人・大学・高校を含めた全体で実施されるので、図書館の専門性は考慮されない。したがって、図書館員の半分以上は非司書の一般職員であり、また、司書の大部分も文系司書である。さらに、専門的レファレンス能力のある農業系司書もこうした人事異動で減少している。大学であれ、短大であれ社会に貢献することは社会的使命であり、そのために、教育環境の整備が必要である。図書館も利用者サービスの向上で、こうした貢献に協力しなければならない。その貢献の成否は、高い専門性を持ったレファレンサーの確保に掛かっているといっても過言ではない。そのためにも、職員の専門性についての理解を全学に深め、人事異動に反映させることと同時に、本学として絶対数的に不足する専門的なレファレンスができる人材を、アウトソーシングにたよることも必要かもしれない。
教員の兼任異動がある。司書有資格者と事務職との専門性の格差。アウトソーシング導入されないための危機管理。
問5 については今後の検討課題
今のところ、アウトソーシングの予定はないが、過去の目録データの遡及入力について、今後アウトソーシングが必要となる可能性がある。

第三科会アンケート結果

研修会実施要項送付時にお願ひしましたアンケートの結果です。％はそれぞれの質問に対する回答数の合計を基にしています。従ひまして、回答数が同じであっても割合が同じとは限りません。アンケートに回答をよせて下さった方々に感謝申し上げます。

アンケート 「インターネットを利用した図書館情報の提供について」のアンケート集計

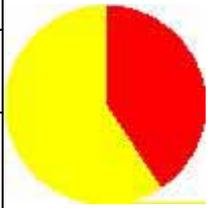
図書館の設置形態

選択肢	回答数	割合(%)	凡例	
単独館	127	49.61	■	
大学・大学院共用館	113	44.14	■	
その他	16	6.25	■	

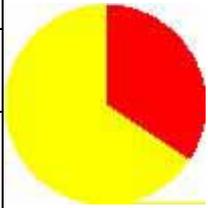
A. インターネットへの情報発信

1 利用者サービスについて

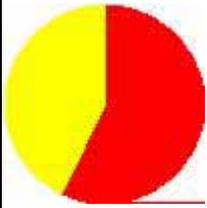
1) 館内ツアーを定期的に行っている

選択肢	回答数	割合(%)	凡例	
はい	103	40.87	■	
いいえ	149	59.13	■	

2) 情報探索セミナーを開いている

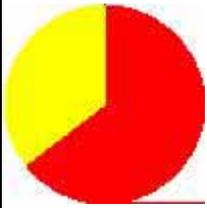
選択肢	回答数	割合(%)	凡例	
はい	87	34.66	■	
いいえ	164	65.34	■	

3) 図書館広報としてウェブサイトを開設している

選択肢	回答数	割合(%)	凡例	
はい	147	57.42	■	
いいえ	109	42.58	■	

2 ウェブサイトについて

1) 図書館員が作成している

選択肢	回答数	割合(%)	凡例	
はい	98	64.9	■	
いいえ	53	35.1	■	

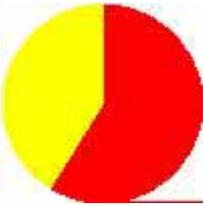
2) 作成ソフト名

選択肢	回答数	割合 (%)	凡例
ホームページビルダー	46	69.7	
MS FrontPage	8	12.12	
Adobe GoLive	5	7.58	
Dream Weaver MX	4	6.06	
Macromedia CONTRIBUTE3	1	1.52	
Edit HTML	1	1.52	
ネットスケープ	1	1.52	



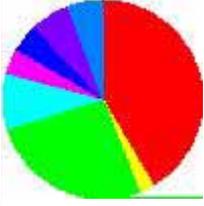
2) 外部に委託

選択肢	回答数	割合 (%)	凡例
学外	33	58.93	
学内	23	41.07	



3) 更新頻度

選択肢	回答数	割合 (%)	凡例
随時	53	41.73	
週1~2回	3	2.36	
月1回	33	25.98	
月数回	12	9.45	
2ヶ月1回	5	3.94	
年1回	6	4.72	
年数回	8	6.3	
不定期	7	5.51	

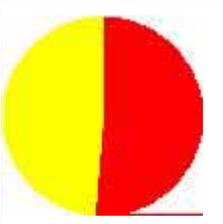


4) インターネットへの情報発信における問題点

手間のかけ方によるが、大変な時艱がかかる。
更新に学内決済が必要で手続きが煩雑。他部署とのバランスなど制約がある。
図書Webページのトップページ作成に制限がある。資料の検索速度が遅い。
広報が足りないため、学生・教員への認知度が低い。
セキュリティ対策上学外公開は控えている。
情報量が少ない
人員が少なく更新できないコンテンツがある。HP作成は独学に頼り、意欲のある人が更新や作成を行うことになる。
利用者のセキュリティを考えると、HPの暗号化が必要
作成できるスキルを複数の職員で共有することが難しい。
OPACを公開したいが予算的な問題で実現できずにいる。
スキルを持っている職員のみ負担となる。職員が移動した場合困る。
更新頻度の高いお知らせだけでも図書館員が作成できると良い。
ソフトを利用できる職員に限られているので、作業が特定の職員に偏っている。
利用者にとってわかりやすいサイト構成、デザインが難しい。
情報探しポータルとしての機能が不十分
学内の担当者に図書館員の真意が伝わらないことがある。
更新の手間がかかる。
更新がなかなかできない。情報発信まで至っていない。
更新が思うようにならない。レイアウトなど打ち合わせの時間が取れない。
大学として作成し、その中に図書館の情報をあげている。特に問題点はない。
蔵書検索ができないので今後取り組みたい。
メンテナンス等に手がかかる。
開館予定日のみ公開中。
掲示板サービスを行っているが、誰でも書き込み可能なため変な書き込みがたまにある。
HPを担当する専門的な職員がいない。
コンテンツの作成者が限定されてしまう。
現時点ではOPACに利用の手引き、カレンダーを加えた簡単なものなので、新システムに切り替えた時にきちんとしたものを作りたい。
職員の技術不足、人手不足のため、満足なサイトを作成できず、更新もおこたりがち。
図書館員にHTML技術がないため、他部署の方を煩わすことになり、思うタイミングで更新ができない。
専用サーバでないので、リアルタイムな更新ができない。
一般事務職員が作成しているため、大幅なWebページの変更や作成は難しい。
実際に役立つ内容の物を作りたい。利用者が日々活用して日々使われる内容の物を作りたい。最低1回はお知らせ等の更新をしていかなければならないが、専門家がいないのと、人員の問題で手が回らない。外部委託を検討中。

3 サーバについて

1) 図書館専用

選択肢	回答数	割合 (%)	凡例	
はい	107	51.44	■	
いいえ	101	48.56	■	

2) セキュリティ対策は万全

選択肢	回答数	割合 (%)	凡例	
はい	166	83	■	
いいえ	34	17	■	

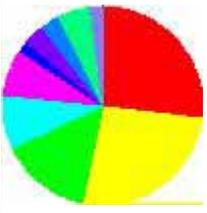
4 図書館運営での悩み

Webページ企画・立案・作成について態勢が整わない
館内OPACが未定
スタッフが1名なのでサービスが行き届かない。
図書館に対する周囲の理解が得られない。
人員不足
書誌データ以外の情報が古い。
学生利用者への情報提供量が多元化し学生の意識の混乱が予想される。
他の仕事の合間に行っているので大規模な更新ができない。
HP制作スキルを持った館員がいないこと
業務用・利用者用のネットワーク分割が問題
知識・技術が足りない為、良いHPが作れない。
他の図書館業務もあるので割ける時間が限られている。
図書館とコンピュータセンター、本学と業者間との調整・交渉が必要で、スキルを持った職員の移動が不安。
システムの保守契約が土曜日は対象外
司書数が少ないのが1番の悩み。ほとんど1人で仕事をこなさなければならない。
収納スペースが足りない。
図書館HPの更新頻度に時間がかかる。
授業内容につながる利用は多いが、芸術面・文学面など教養的分野の利用が少なく偏りがある。
小規模大学の小規模図書館のため恒常的な予算不足
十分なスペースがない。
古い蔵書で破棄できない図書の保存方法
保守を継続していくスキルがない。
ライブラリーとシステムは同じ「学術情報センター」組織であるが、ホームページが独立しており統合的なサービス提供が課題
情報技術に関する知識不足
情報量が多く、更新頻度も高いので、対応が追いつかない。
利用促進などを通じて利用を促しているが、図書館HPの認知度がなかなかあがらない。
司書職員の人数不足
学生の図書館利用・貸出率の低下。図書保管スペースの問題。地域開放の問題。BDS 老朽化によりカード式入管が導入の問題。
悩みはない。OPACサーバ管理は外部委託だが、自館管理だったらOPAC公開も遅れたかも。
人手不足
セキュリティ対策のためシステム管理者の負担が大きい。
司書1人での活動展開対応についてが、今後の課題
システムのセキュリティ強化の必要性を踏まえながら、図書館のサービスの後退を避け、実状にあった取組みを今後どのように検討していくべきか。
ネットワークなどの情報に対する専門職員の不足
カウンターが入口と離れた場所にあるため不備を感じる事がある。

図書館の電子化をどのように進めていったらよいか。有料データベース、電子ジャーナルの導入など。
更新作業の時間が少ない。
図書館に情報系の専門職員がいない。
システムのメンテナンス、セキュリティの維持
人手不足
担当者の育成
専任職員の減少により利用者サービスまで手が回らない。
満身に予算が取れない為、資料収集等が不十分

5 Webページ作成・公開・管理するために、身に付けたい技術は、なんですか。身に付けたい技術

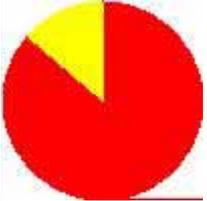
選択肢	回答数	割合 (%)	凡例
ソフトの操作方法	93	27.19	■
HTML	90	26.32	■
Script	49	14.33	■
CSS	31	9.06	■
XML	25	7.31	■
XSL	7	2.05	■
アプレット	12	3.51	■
PHP	10	2.92	■
Perl	19	5.56	■
その他	6	1.75	■



B) 図書館システムについて

1. 図書館システム導入

選択肢	回答数	割合 (%)	凡例
有	217	86.45	■
無	34	13.55	■



2. 現在の図書館システムのソフトウェアについて

1) 導入ソフトウェア

選択肢	回答数	割合 (%)	凡例	
パッケージ	206	96.26	■	
学内開発	5	2.34	■	
その他	3	1.4	■	

2) Web対応

選択肢	回答数	割合 (%)	凡例	
有	144	72.36	■	
無	55	27.64	■	

3) パッケージ名称/メーカー名

選択肢	回答数	割合 (%)	凡例	
情報館/ブレインテック	82	39.81	■	
LIMEDIO/リコー	24	11.65	■	
iLiswave/富士通	20	9.71	■	
CALIS/丸善	16	7.77	■	
LINUS/日本電子計算	9	4.37	■	
CARIN/京セラ丸善システムインテグレーション	9	4.37	■	
NeoCILIUS/日本事務器	8	3.88	■	
E-Cats/NEC	6	2.91	■	
NALIS/NTT	5	2.43	■	
LICS-U/21/NEC	5	2.43	■	
UNIPROVE/日立	4	1.94	■	
その他	18	8.74	■	

4) 現在の図書システムの導入時期

選択肢	回答数	割合 (%)	凡例
2005	9	4.35	
2004	27	13.04	
2003	27	13.04	
2002	23	11.11	
2001	14	6.76	
2000	16	7.73	
1999	20	9.66	
1998	16	7.73	
1997	14	6.76	
1996	4	1.93	
1995	8	3.86	
1994 以前	29	14.01	

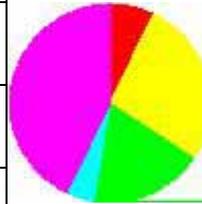
C) インターネットの接続状況

1. 接続先

選択肢	回答数	割合 (%)	凡例
接続していない	29	12.55	
SINET	88	38.1	
その他	114	49.35	

2. 接続速度

選択肢	回答数	割合 (%)	凡例
1M 未満	13	7.39	
~ 1.5M	48	27.27	
~ 10M	32	18.18	
~ 50M	8	4.55	
100M	75	42.61	



アンケートI

研修会参加の有無にかかわらずご回答下さい。
(提出期限 8月5日(金))

短期大学図書館の自己点検・評価についてのアンケート

短期大学名: _____

電話番号: _____

記入者名: _____

学校教育法の改正により、平成16年度から、第三者評価による大学評価制度が導入されました。これにより、すべての大学・短期大学は、「教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備の状況について、自己点検及び評価を行って結果を公表すること」、そして「文部科学大臣の認証を受けた評価機関(認証評価機関)による評価(認証評価)を定期的に受けること」が義務づけられました。第一分科会の基礎資料とするために、「短期大学の自己点検・評価、第三者評価の実施状況について」、そして、図書館の自己点検・評価項目の中から「選書・廃棄について」の現状を把握いたしたく、アンケートにご協力をお願いいたします。

アンケートの集計結果は、平成17年度私立短期大学図書館情報担当者研修会の資料集に掲載させていただきます。

以上の趣旨をご理解いただき、研修会への参加・不参加にかかわらずご回答いただきますようよろしくお願いいたします。

回答は各設問の該当箇所に 印を付して下さい。

____は具体的にご記入下さい。

A. 図書館について

1. 設置形態

- a. 単独館 b. 大学・大学院共用館 c. その他 _____

2. 奉仕対象学生数(2005年5月1日現在在籍者数)

- 1) 短期大学学生 _____ 名 2) その他 _____ 名

3. 図書館職員数(2005年5月1日現在)

*館長を含まない。但し他の職務と兼任しておらず、館長職に専従している場合は含む。

- 1) a. 専任(正規の職員として雇用されている者) _____ 名
b. 非専任(短期間雇用も含め、年間実働予定時間の合計を1500時間で除したものを1人とする。小数点第二位を四捨五入) _____ 名
c. 派遣職員等(算出方法は同上) _____ 名

- 2) 司書・司書補資格保持者 a. 専任 _____ 名
b. 非専任・派遣職員等 _____ 名

B. 自己点検・評価、第三者評価の実施について

1. 自己点検・評価報告書を発行していますか?

- 1) 図書館単独で a. 発行している b. 発行していない
2) 大学として図書館を含めて a. 発行している b. 発行していない

2. 認証評価機関(大学基準協会・短期大学基準協会等)による第三者評価を実施しましたか?

- a. _____ 年度実施 b. _____ 年度以降実施予定 c. 未定

3. 他大学等との相互評価を実施しましたか?

- a. ____年度実施 b. ____年度以降実施予定 c. 未定

C. 図書館資料の選書・廃棄について

1. 選書委員会はありますか?

- a. ある b. ない c. その他_____

2. 収書規程(覚書を含む)はありますか?

- a. ある b. ない c. その他_____

3. 除籍規程(覚書を含む)はありますか?

- a. ある b. ない c. その他_____

D. 図書館の課題

自己点検・評価、第三者評価にあたって、図書館の課題となったことについてご記入下さい。

このアンケートについての質問等は、下記運営委員へお問い合わせ下さい。

椎名仙卓(聖徳大学短期大学部図書館) .047-365-1111 shiina@seitoku.ac.jp

坂本恭子(大阪女学院短期大学図書館) .06-6761-4021 sakamoto@wilmina.ac.jp

篠原智子(立教女学院短期大学図書館) .03-3334-7029 shinohara@rikkkyo.ne.jp

アンケート

研修会参加の有無にかかわらずご回答下さい。
(提出期限 8月5日(金))

図書館の専門性から見たアウトソーシング問題と利用者サービスの向上についてのアンケート

短期大学名: _____

電話番号: _____

記入者名: _____

回答は各設問の該当箇所に 印を付して下さい。

() は具体的にご記入下さい。

1. 図書館の設置形態

1) 単独館 2) 大学・大学院共用館 3) その他(_____)

2. 貴図書館では利用者サービスの向上を目的としたアウトソーシングを実施していますか。

1) 実施している 2) 実施していない

3. 実施していると回答された図書館は、実施している業務の種類をご記入下さい。

(_____)

4. 利用者サービスの向上という観点から、アウトソーシングを実施(導入)したことによるメリットとデメリットについて、お考えをご記入下さい。

(_____)

5. 実施していないと回答された図書館で、将来アウトソーシングを実施する予定はありますか。

1) ある 2) ない

6. あると回答された図書館は、導入予定時期・業務の種類などについて具体的にご記入下さい。

(_____)

7. その他

(_____)

このアンケートについての質問等は、下記運営委員へお問い合わせ下さい。

二宮嘉須彦(郡山女子大学短期大学部 教授) .024-932-4848

磯野 嘉子(千葉経済大学短期大学部 助教授) .043-255-3451

井上 節子(文化女子大学短期大学部 図書館司書長) .03-3299-2195

足立 行子(東京富士大学短期大学部 教授) .03-3368-0887

アンケート

研修会参加の有無にかかわらずご回答下さい。
(提出期限 8月5日(金))

インターネットを利用した図書館情報の提供についてのアンケート

短期大学名: _____

電話番号: _____

記入者名: _____

回答は各設問の該当箇所に 印を付して下さい。

____は具体的にご記入下さい。

図書館の設置形態

- 1) 単独館 2) 大学・大学院共用館 3) その他 _____

A. インターネットへの情報発信について

1. 利用者サービスについて

- 1) 館内ツアーを定期的に行っている 1. はい 2. いいえ
2) 情報探索セミナーを開いている 1. はい 2. いいえ
3) 図書館広報としてウェブサイトを開設している 1. はい 2. いいえ
3) で 1. はい を選択した機関は 2. へすすんでください。

2. ウェブサイトについて

- 1) 図書館員が作成している 1. いいえ
2. はい (作成ソフトウェア名 _____)
2) 外部に委託 1. いいえ
2. はい (委託先 : 学外 学内)
3) 更新頻度 (_____)
4) 問題点があればお書きください
(_____)

3. サーバについて

- 1) 図書館専用 1. はい (ベンダー名 _____)
2. いいえ (設置部署 _____)
2) セキュリティ対策は万全 1. はい 2. いいえ

4. 図書館運営での悩み

(ありの理由: _____)

5. Webページ作成・公開・管理するために、身に付けたい技術は、なんですか。

作成ソフトの操作方法 HTML JavaScript CSS
XML XSL Javaアプレット PHP Perl
その他 (_____)

B. 図書館システムについて

1. 図書館システム導入の有無 1. 有 2. 無
前設問で有と回答された図書館は2以下の設問に回答ください。

2. 現在の図書館システムのソフトウェアについて

- 1) パッケージ (名称: _____ メーカー名: _____
We b対応: 1. 有 2. 無
2) 学内開発 (We b対応: 1. 有 2. 無)
3) その他 (_____)

3. 現在の図書館システムの導入時期について 西暦 _____ 年 _____ 月

C) インターネットの接続状況

- 1) 接続先 1. 接続していない 2. SINET (含む Super SINET) 3. その他 (_____)
2) 接続速度 (_____ Kbps Mbps)

このアンケートについての質問等は、下記運営委員へお問い合わせ下さい。

宮本 勉 (嘉悦大学短期大学部教授)	.0424-66-3711	miyamoto@kaetsu.ac.jp
渡部 満彦 (大妻女子大学短期大学部教授)	.03-5275-6051	mnabe@aoni.waseda.jp
井澤 房男 (大阪青山短期大学図書館主任司書)	.072-722-4165	f-izawa@osaka-aoyama.ac.jp
河崎 雅人 (岡山短期大学教授)	.086-428-2651	kawasaki@owc.ac.jp
杉江 晶子 (名古屋文理大学短期大学部助教授)	.052-521-2231	sugie@nagoya-bunri.ac.jp

2005年度私立短期大学図書館情報担当者研修会

参加アンケート集計

総参加者 102名 回収数 89名 87%

(第一分科会) 参加者 53名 回収数 43名 81%

(第二分科会) 参加者 23名 回収数 21名 91%

(第三分科会) 参加者 26名 回収数 25名 96%

1. この研修会への参加は何回目ですか

1) 初めて	63名	71%
2) 2～3回	19名	21%
3) 4回以上	7名	8%
計	89名	100%

2. 職種についてお知らせください。

1. 図書館長・副館長(教員)	13名
2. 図書館長・副館長(職員)	2名
3. 図書館事務局長・課長・主任等	23名
4. 図書館司書	33名
5. 図書館事務職員	16名
6. 図書館以外の教員	1名
7. 図書館以外の事務職員	
8. その他	
9. 無回答	1名
合計	89名

3 全体会(第1日目、2日目)の内容について、ご意見・ご感想をお聞かせください。

<満足度>

(+) 5	4	3	2	1 (-)	無回答	計
27	41	20			1	89名

<コメント>

- ・短大の現状についての説明は大変参考になった。全体として第三者評価を2年後に控えて大いに参考になった。
- ・図書館情報研究委員会のHPを今後活用させていただきます。インターネットと図書館について知らないことも多かったので今後資料を参考に業務に活かしたいと思います。
- ・初めての参加でもあり、また、日ごろ自校の当面の課題に追われている者にとって現在の短大がかかえる課題と展望の中で図書館が位置付けられているのかという大局的な立場から理解が得られてよかった。とりわけ、基調講演の配布資料は貴重であった。感謝申し上げます。
- ・委員会の報告は、今後加盟短大がいかにかわるかによって成否が左右されるように思われる。
- ・テーマごとに、多数の資料を提示頂きうれしく思います。研修会資料集は後日じっくりと読み返したいと思います。
- ・大変勉強になりました。ただ、2日目の特別講演「インターネットと図書館」をもっとじっくり聞きたいと思いました。
- ・1日目の委員会報告のHP紹介に1時間は必要ないと思う。
- ・委員会HP、公共図書館の話等知らないことを知り得たのが有意義でした。
- ・委員会報告についてはもっと短時間にまとめてよい内容だったのではないかと思います。
- ・ホームページの開設に関った方々に感謝致します。今後は、交流コーナー等を活用してみようと思います。

・いろいろな情報を得ることができ、非常に有意義でした。いただきました資料につきましてもどんどん活用させていただきます。

・第1日目の第1、第2日目はともに満足度4で、ありがたいものでした。タイムリーさがとくにうれしいものでした。第2日目の第2は、大変なご努力、ボランティア精神、頭の下がる思いがしました。ただ、紹介で、1事項だけでしたら、他の事項も入れるか、15分位ですんだかと思いました。

・2日目保護法はより具体的で非常によかったです。
・図書館という立場での内容で非常に参考になりました。
・分科会にくらべ、内容がまとまっていない感じがした。しかし、とても勉強になるものもあった。
・図書館情報委員会のホームページを利用したいと思いました。
・どれも興味深く聴かせていただきました。特にHP開設は大変うれしく思いました。日常の仕事に活用させてもらいたいと思います。

・図書館の仕事にたずさわっていると、他のことがわからなくなることもあるが、短期大学の現状と今後の課題はとてこれからのことを考えさせられた。

・HPの開設で、これから横のつながり、交流、勉強させていただけると良いと思っています。

・為になるものが多いが、盛りだくさんの感じもする。有益であった。

・短期大学との接点あまり感じられなかった。内容はよく理解できたが。

・2日目はよかったです、1日目が難しかったです。

・宮本先生のご報告された内容は、これまで関わってこられた方たちのご苦勞の結果だと思います。良かったです。伊藤さんのご報告された内容は興味深く、よい情報をいただけたと思います。

・時の問題として大局的な内容を扱って欲しかった(2日目)。演者の主張やポリシーなど、個性ある60分でほしかった。

・インターネットと図書館(実践女子大、伊藤氏)参考になった。

・二回目「インターネットと図書館」はとても参考になりました。

・多少、一時間に内容を詰め過ぎの感が無きにしも非ず。(ことに2回目)

・2回目の講演では、今後の図書館業務に役立つ情報を得ることができました。

・伊藤さんの講演が、業務を改めて考え直すことができ、大変よかったです。

・普段、県内の研修会では何う事の出来ない講演を聴くことが出来、良かった。

・もう少し、具体性のある方向性が必要。

・短大の現状が少し分かり参考になりました。

・とても有益な話が聞けて良かった。今後業務でとりいられる部分は積極的に取り入れていきたい。

・内容は大変満足ゆくものでしたが、いささか時間設定が短かった。もう少しゆっくり伺いたかった。

・大変参考になりました

・大変興味深い基調講演だった。

4 分科会(第1日目、2日目)の内容について、ご意見・ご感想をお聞かせください。

参加された分科会をえらんでください。

自己点検

<満足度>

(+) 5	4	3	2	1	無回答	計
23	13	2			5	43名

<コメント>

・ISOは初耳であったので参考になった。図書館の勤務条件などについて質問したかった。

・いずれもレジメにそって具体例とともに発表されており理解しやすかった。今後記載されている資料にもあたり勉強していきます。

・アウトソーシングが進展しても専門職としての図書館業務は残すべき。(心の通う図書館業務)図書館長のビジョンが大切。(実態に応じた創意工夫の強調ととらえたが...)学生や先生方が通ってくる図書館作り。図書館における個人情報保護法など。

- ・何もかもタイムリーな発表・講演であった。
- ・自己点検・評価報告書を作成した立場から、今回のお話は大変ためになりました。もっと早く聞くことができればと悔やまれます。また、個人情報保護のお話では、今まで曖昧だった部分をはっきりさせることができました。
- ・自己点検、個人情報保護ともタイムリーな話題だったので、すぐに役立つことが出来ます。
- ・藤倉氏の個人情報保護法の講演は大変ためになった。
- ・古澤氏の ISO 認証取得の取り組み及び藤倉氏の個人情報保護法に関する話は非常に具体的で参考になる点が多く手応えがあった。
- ・実際に評価事項の具体的な説明を頂き、大変参考になった。最後に「第三者評価を受ける事」が、目的にならずに、図書館発展の為の手段にならなければ意味がないとも思った。
- ・宮内先生の発表は、具体的でアイデアに富んでいてたいへん参考になりました。古澤先生の発表は、たいへん率直なもので、ISO という新しい世界のことがよくわかりました。
- ・ISO を取得するしないにかかわらず、業務をスムーズに行う上で、聖徳学園の事例は大変参考になりました。個人情報については、短大の管理者任せにしないようにしたいと思います。
- ・両日共とても参考になった。
- ・とても参考になりました。第三者評価について少しイメージがつかめた様に思いますが、今後も勉強せねばと考えております。他の分科会テーマも興味深く、発表内容等が「図書館情報委員会」ホームページで紹介していただけたら、と願っております。何卒ご検討ください。
- ・「自己紹介」は不要であったと思う。それより、質疑応答の時間を長く取るべきではなかったか。司会者は質問が出るまでもっとゆっくり待つのがよいと考える。
- ・1日目の時間配分が??...だった。自己紹介で時間をつぶすならば、講演の時間を長くしてもらうか、もう一つ講演を加えてもらえれば良かったと思う。
- ・もう少し各館との情報交換の時間を設定してほしかった。
- ・第三者評価の受査がこれから(2007年)ですので大変参考になりました。
- ・とくに第1日目第1の宮内先生のお話は、今まさにうかがいたいところがうかがえ、大満足で、来たかいがありました。
- ・時代のニーズに即したテーマで、非常に有益で意義深い研修であった。(1日目、2日目とも)
- ・自己点検に必要な事、又、業務改善をする上での留意点など、参考になる事が多く大変有意義でした。
- ・自己点検について、実際にやらなければならないという事情もありとても良かった。さっそく仕事にいかしたい。
- ・かねてからの疑問に思っていることを、多く教えていただき、とても有意義でした。ありがとうございました。
- ・宮内先生のお話には、少しついていけないところがありましたが、古澤先生の時には少しテンポに乗

れてよく理解ができました。2日目の分科会は具体的でよかった。

- ・間近にせまった第三者評価への対応について、学ぶ点が多かった。参考にさせてもらい学校に帰って生かしていきたい。
- ・具体的な記述の仕方も聴くことができ、大変勉強になった。ISO、個人情報についても大変役に立つものだった。

第2分科会 図書館の専門性から見たアウトソーシング問題と利用者サービスの向上について

<満足度>

(+) 5	4	3	2	1 (-)	無回答	計
6	7	3			5	21名

<コメント>

- ・図書館員が減らされている現状より、アウトソーシングにたよらざるをえない図書館(員)ではと考えている。しかしながら、予算の問題など折り合わないということも実情である。これらの問題の上で、今回の研修でさらに得た知識をもって、より良い方向に進めていきたい。
- ・基調講演、講演、事例発表とアウトソーシングのことが次第に具体的に理解が深まった。二宮先生の進行が参加者の意見を自然に引き出していたと思います。
- ・事例発表、意見交換の時間が足りなかった。
- ・事例発表での各館の意欲的な取り組みは、アウトソーシングと、図書館とのあり方を自分の図書館とつぎ合わせて考えるよい機会、よい提案、参考になることが多くありました。自分の勤める図書館をどうしていくかの姿勢を、改めて問わ

れている気がしました。

- ・ムダのない適切な進行であった。
- ・丸善さんの話、いろいろな事例があって勉強になりました。
- ・とてもタイムリーな話題でした。司会の先生の運営もわかりやすく良かったです。
- ・大学による事例報告が身近に感じられ、ためになった。
- ・一線で苦闘されている方々の声がたくさん聞けて何よりもうれしかった。
- ・実践女子大学の井氏の話は非常に良かった。
- ・アウトソーシングの問題にとどまらず、司書の仕事、役割について再考するよき会となりました。

第3分科会 インターネットを利用した図書館情報の提供について

<満足度>

(+) 5	4	3	2	1 (-)	無回答	計
12	6	5	1		1	25名

<コメント>

- ・一日目「よいホームページを作るには」では実習中心でしたが、タグの入力は慣れないと、煩わしく感じ、手間どりました。もっとレイアウトやデザイン、概要的な話を聞きたかったです。
- ・ノートパソコンを使い慣れていないので、お隣の方にご迷惑をおかけしましたが、HTMLの作り方などを教わる機会に恵まれて大変勉強になりました。もっと時間が欲しかったです。
- ・操作の手助けがあって助かった。
- ・HTMLを使用しての実際のホームページづくりは、自分にとって大変新鮮なものでした。分科会出欠を取る際にパソコン操作のレベルを記載する等があったら大きな差が出なかったかなと思いました。
- ・コンピュータの操作そのものに不慣れな為、進行に取り残されてしまうことが度々あったのが残念である。
- ・パソコン操作の難易度のギャップに困った。技術操作よりも将来に向けての情報収集のあり方に注目して参加したのだが、技術操作に苦労しました。
- ・参加者の情報収集の知識に対する差があり、講義でも、知識の低い方に対しての内容であったため、知識のある者にとっては、少々不満な内容であった。研修会名が情報担当者研修会というからには、それに合った参加者を集め、分科会内容も高めて欲しいと思いました。2回目の演習は大変参考になりました。
- ・スクリーンの文字が読めず(席が離れていたため)入力するのに困りました。進行が早くについてゆけませんでした。
- ・先生の丁寧な説明と楽しくためになるお話が聞けてよかったです。
- ・よい説明をよい参考書の紹介が良好。
- ・パソコンの操作になれず、言われるままにしましたが、インターネットの便利な使い方が少し分かりました。
- ・もうすこし事例報告が聞けたらよかったです。
- ・HP作成の経験がなかったのですが、手軽に作成できることがわかり、楽しく実習を行うことができました。ただ、タグ等の知識が足りずだんだん理解ができなくなっていったので、今度はもっと勉強していきたいと強く思いました。大変参考になりました。2回目のお話興味深かったです。
- ・PCも2人に1台ずつ、内容も多岐にわたって非常に充実したもので多々学ばせていただきました。
- ・HP作成は専門用語が多く難しかったが、自己流でやったことの基本が分かってよかったと思う。
- ・HP作成、レファレンス演習、図書館で働くにあたっての考え方など、多くのことを学びました。図書館で働くことについて私自身もよく考えているので渡部先生の言葉がひびきました。
- ・内容的には今後とても役に立つものだと思います。しかしながら、自分の技術が追いつかず、つらいものがありました。今後勉強したいと思いますし、良いきっかけになったと思います。
- ・とても親切に教えていただきありがとうございました。いかに自分の学校が遅れているかということに改めて気付かされました。
- ・委員の先生方が大変気を使って運営されていました。感謝いたします。2名に1台パソコンがあったのは良かったと思います。(具体性あって)
- ・現在の業務に直結した内容だったので参考になった。

・HP作成にはじめて触れ、命令言語のしくみがどういう手続きでなりたっているのか、第一歩にふれることができた。初心者にはむずかしかったが、頭をねじねじできてよい勉強になりました。

5. 研修会の実施(時期、場所、参加費など) また、運営について気が付いたことやご要望をお書きください。

<全般>

・おつかれさまでした。沢山、勉強させていただきました。一大事!短大図書館の真骨頂、横のつながりを活かして、もっともっと連絡を密にしていく方策をとったらどうですか。(もっと小さな規模の集まりで良いと思います。)

- ・委員の皆様、運営等御苦勞様でした。ありがとうございました。
- ・細部まで行き届いた運営であったかと存じます。貴重な研修機会を与えて頂いたことに感謝します。
- ・2年に1回だが、開催はとても大変だと思う。本当にありがたいことです。
- ・研修会の実施については、特に何もありません。

<時期・場所>

- ・本学は9月の最終週より後期の授業が始まるので、9月中旬くらいが良い。
- ・可能であれば、夏季休業の時期(8~9月20日)に実施していただければ助かります。
- ・時期・・・9月15~20日ごろがありがたいと存じます。
- ・時期はちょうど後期が始まる頃なのでもう少し早く(9月中旬位)だと助かります。
- ・この時期の週日開催は、教師にとって出席できにくい時期。夏休み終了前(9月中旬以前)では拙いですが。
- ・研修会の時期は、後期開催直後は避けた方がいいと思います。できれば夏休み期間中に実施していただきたいです。
- ・後期が始まってすぐの忙しい時期でしたので、もう少し夏休み中など検討下さい。
- ・新学期の多忙期と重なるので、もう一息早い時期の方がたすかります。
- ・時期はちょうど良いです。
- ・研修会に出席するために休館してもいい時期にさせていただけたのがうれしいです。
- ・後期が始まり少し落ち着いた時期で、大学祭等の行事が始まる前なのでよい時期だと思います。
- ・9月は夏休み期間なので、9月は参加しやすいと思います。
- ・時期も場所も、当方にとってはとても便利で参加しやすいです。(3件)
- ・東京はありがたい。時期も適当です。
- ・東京などの便利なところ。9月の下旬、10月。
- ・場所は関東地区で開催されることを希望します。
- ・次回は関西で開いていただけると嬉しいです。
- ・場所が交通の便の良い所で大変助かりました。時期・運営も良いと思います。

<参加費>

- ・参加費がもう少し安いと良いと思う。(2件)
- ・参加費が高い。(5件)
- ・参加費用が高いような気がします。(会場費用の面もあるのでしょうか)
- ・参加費が高いように思います。懇親会をあそこまで豪華にしなくてもいいので、参加費をさげてほしいです。
- ・今日初めての参加だが、参加費の高さに驚いた。懇親会の費用が入っていると思われるが、もう少し安くないのか疑問です。
- ・懇親会は希望参加型がよろしいのではないのでしょうか
- ・参加費については一律ではなく懇親会に出られない場合は金額を下げても。
- ・参加費の中の懇親会費は私費ですので別に設定していただきたい。

<運営>

- ・講演や発表は夫々得ることが多かったが、意見交換・問題点の質問の場が少なかったように思います。
- ・2日目午後からの大学図書館見学は不要だと思う。代替えとして、研修を受けてグループ討議(5~6名)等を行う方が有意義ではないか?
- ・見学は道の不案内の者もいるので、希望者は一緒に各校に行くようにしてもらいたいです。
- ・分科会よりも全体会に比重を置いた方がよいのではないのでしょうか。バランスが逆転するくらいでもよいかと思う。
- ・他分科会にも関心があったが、資料が手に入るようにしてほしい。
- ・昼食を用意していただけるとありがたいです。もしくは少し早めに昼食時間にするなど。

- ・昼食は持参しましたが、会場内で飲食できる場所の案内がなく迷いました。
- ・資料はとても充実していて、後で読み返す際に役立ちそうだと思います。

< 第三分科会関連 >

- ・第三部会はパソコン実習もあり、勉強になりました。字が見えなかったりすることもありましたが、有意義であった。
- ・事前に研修内容が知らされていれば、具体的に予習ができます。
- ・分科会、事前にレベルチェック等して、不得手な方と慣れた方をセットにするか、アシストの先生を増やしていただくかしてもよかったですか？
- ・事前に分科会の内容をもう少し詳しく知ることができたら良かった。
- ・技術研修は諸準備方、大変かと思いますが、とても有益と考えます。色々の進め方があるかと思いますが、是非、今後でも取り入れて頂きたい。

6. 今後の研修会のために、ご関心をおもちのテーマおよび内容がありましたらお書きください。

- ・今回のように、短大全体に関わる内容のものだと、経済的にも出やすいです。
- ・他の分科会も関心があり、参加したかったので、また取り上げられたらと思います。
- ・インターネット関連のことに関心はあるが、第三者評価が落ち着くまではそちらの関連のことが気になる。
- ・図書館長向けの研修もよろしく願います。
- ・図書館経営、第三者評価、高校図書館(普通教科「情報」への対応)。
- ・図書館司書の勤務条件について。
- ・夜間開館の管理について。
- ・図書館勤務時間が他の部と大変違いがあります。夜間勤務でいいのか？
- ・図書館における人員の配置について(事務局職員数との関係)
- ・職員研修
- ・私立大学独自の教育方針(方向)の中での図書館専門職としての在るべき立場の探究。
- ・利用指導
- ・利用者教育に関するテーマ
- ・利用者の満足度とは何をモノサシにすべきか？単に利用者が希望する図書(情報)を提供するだけでよいのか？
- ・学部と短大で共有館であるが学部生と短大生とではサービスは異なるべきであると思っているが現実には変わらないサービスをしている、これで良いのでしょうか？
- ・学生への読書支援
- ・相互協力
- ・大学図書館の地域開放をテーマとしたものをお願いしたい。
- ・地域開放について
- ・視聴覚資料について、整理、収集、著作権について。
- ・図書館で導入しているデータベースの利用について。
- ・小規模で良いので、研修(特に技術研修)を開いて頂けるとありがたいです。(特に初心者向けの情報検索についてのものなど)
- ・利用者教育についてとオリエンテーションの方法について。
- ・今回のようなコンピュータの研修を続けてください。
- ・ポータルサイトの構築。
- ・インターネット情報資源を利用した、利用教育のような内容。
- ・情報リテラシーの構築。
- ・事務的な諸問題に関する情報交換等があると初心者には有り難いと思いました。
- ・情報検索について詳しく研修を受けたいと思いました。次回も実習を受けたいです。